



高学年

中学年

低学年

高樓方子さんの本はこちら



高樓方子作/木村彩子画
320ページ 定価1,980円

妖しくも美しい幻想文学

『黄色い夏の日』



たかどのほうこ作/佐々木マキ絵
160ページ 定価1,980円

おとぼけ3人組のくすりと笑える日常風景

『グドーさんのおさんぽびより』

『みどりいろのたね』

たかどのほうこ作
太田大八絵
96ページ 定価1,320円

タネとあめをうめたら土の中で大げんか!



『まあちゃんのながいかみ』

たかどのほうこ作
28ページ 定価990円

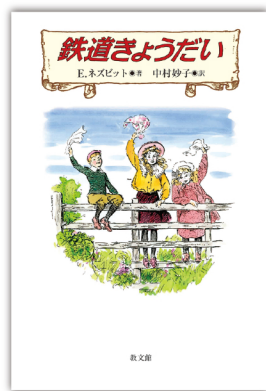
まあちゃんの髪がとってもとっても長くなったら……?



E.G. スピア作/掛川恭子訳
寺島竜一絵
336ページ 岩波書店 品切れ

『からすが池の魔女』

魔女狩りがあった頃のアメリカ。異質なものを拒む周囲の不寛容さに苦しんでいた少女は草原に建つ小屋で、主の老婆や船乗りの青年など自由な魂と出会い勇気を得ます。荒涼とした気配の中、新しい風を感じる物語です。



E・ネズビット著
中村妙子訳
376ページ 定価1,760円 教文館

『鉄道きょうだい』

蒸気機関車を見にいくうち、駅長さんと乗客のおじいさんなどと仲良くなっていく、三人きょうだいの気持ちのいい愉快な話。ぶ厚いけれど、やりとりがおかしくて、プツとふきだしながら、どんどん読んでしまうのです。



マイケル・ポンド作/松岡享子訳
ペギー・フォートナム画
224ページ 定価1,430円 福音館書店

『くまのパディントン』

ペルーからやってきたパディントンは、ブラウンさん一家とくらしながら、つぎつぎといふことを考えついでにはしゃげばかり。おかしくてかわいくて、ほんとうにいるとしか思えない、くまのお話です。



アストリッド・リンドグリーン作
菱木晃子訳/平澤朋子絵
286ページ 定価2,310円 岩波書店

『名探偵カッレ 地主館の罠』

『名探偵カッレくん』に続く、スウェーデンの村の夏休みの話。夜中に走り回ったり、よその家の屋根に上ったり、殺人事件に巻き込まれたり。面白いだけでなく文章がすてきなせいで、読後は魔法にかかった気分。



エレナー・エステイス作
ルイス・スロボドキン絵/石井桃子訳
92ページ 定価1,760円 岩波書店

『百まいのドレス』

ドレスを百枚もってるという貧しい女の子を、ほかの子たちがからかいます。それがいやなのに何もいえない主人公マディー。独特の味わいのある、せつなくきれいな、心にしみる物語です。



ペーン・デュボア文・絵
松岡享子訳
44ページ 定価968円 岩波書店

『ものぐさトミー』

きがえるのも、はをみがくのも、かみをとかすのも、たべるのも、何もかも、きかいがやってくれたら、きつとらくちんと思ったら大まちがい。トミー・ナマケンボが、どんなひどいめにあったか見てください。

おもしろい本をさがしている
きみたちへ『黄色い夏の日』の作者、高樓方子さんに
好きな本を紹介してもらいました。